

2021年度(第67期)

エコアクション21  
環境経営レポート

対象期間：2021年1月～12月

発行日：2022年1月21日

# 目次

1. 会社概要
2. 環境経営方針
3. EA21 推進組織図
4. 環境経営目標とその実績
  - 4-1. 二酸化炭素の排出抑制
  - 4-2. 焼却処理廃棄物の排出抑制
  - 4-3. 水資源投入量の抑制
  - 4-4. 化学物質の管理の徹底
  - 4-5. 製品に関する環境配慮
  - 4-6. 業務におけるQCDの向上
  - 4-7. 5S4定の徹底
5. 中長期環境目標
6. 環境関連法規制の遵守状況  
(外部からの苦情等について)
7. 代表者による全体の取組状況の評価と見直し

# 1. 会社概要(2021年12月28日現在)



- 社名 株式会社 長塚電話工業所
- 本社 〒152-0004  
東京都目黒区鷹番2-11-1
- 営業所/事業部(エコアクション21の認証/登録範囲も同)
  - 【高津営業所】  
〒213-0031  
神奈川県川崎市高津区宇奈根643-3  
[TEL:044-850-1533](tel:044-850-1533)  
[FAX:044-850-1534](tel:044-850-1534)
  - 【高津営業所 分室】  
〒213-0031  
神奈川県川崎市高津区宇奈根705-2  
[TEL:044-833-2999](tel:044-833-2999)
  - 【西日本営業所】  
〒550-0002  
大阪市西区江戸堀1-9-11 アイ・プラス江戸堀2階  
[TEL:06-6225-3535](tel:06-6225-3535)
- 創業 昭和12年2月
- 資本金 1,000万円
- 取引銀行 三井住友銀行 渋谷駅前支店  
三井住友銀行 渋谷支店  
三菱UFJ銀行 都立大学駅前支店
- 事業内容
  1. 業務用ヘッドセット関連業務
  2. コールセンター関連機器の製造販売業務
  3. 情報通信機器/船舶用電話関連業務
  4. CTI/CRM製品導入コンサルティング
  5. コールセンター運用コンサルティング
- 事業規模
  1. 従業員数 21名
  2. 敷地面積 延べ419m<sup>2</sup>
  3. 売上高 933百万円

## 2. 環境経営方針



### 【企業理念】

株式会社 長塚電話工業所は、長年にわたりコールセンター業界等へのコミュニケーションツールの提供を行っています。弊社は、大手企業が持つレガシー資産を持ちませんが、反面身の軽さを中小企業の武器として、世の中の動向を的確に把握し、独自の分野を開拓してまいります。

弊社はエコ的視点をバックボーンとしてユニークな製品作りの研究と開発に努め、お客様に喜んでいただける製品やサービスを提供してまいります。それこそが我々にとっての環境活動であると認識して、社員全員が日常活動としての環境活動を実践し、継続的改善に邁進してまいります。

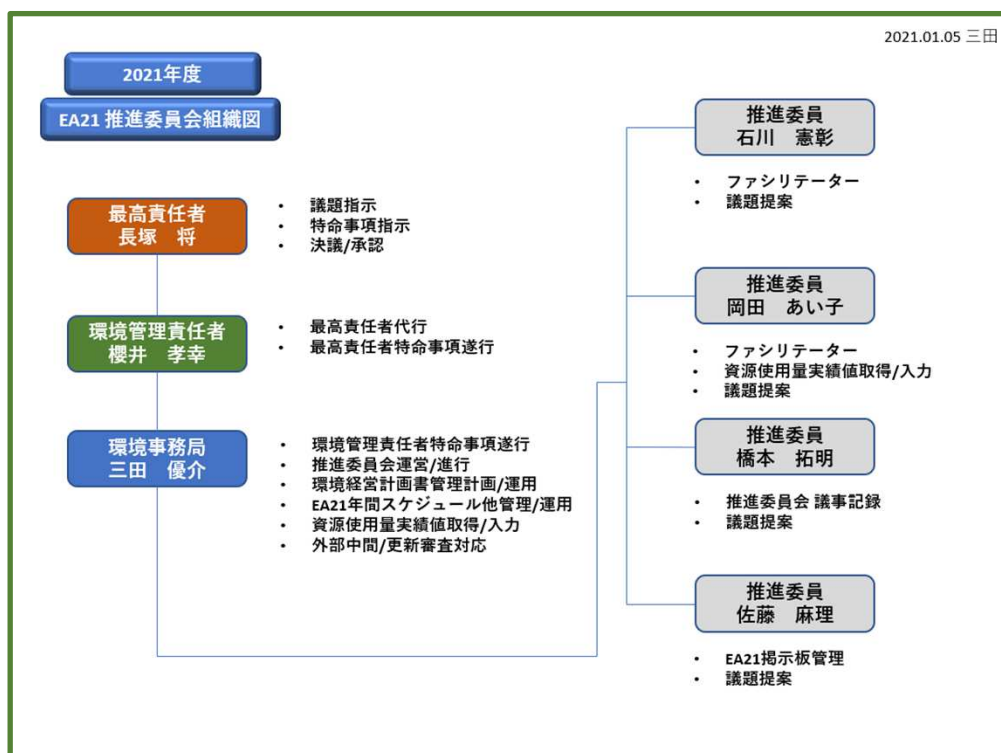
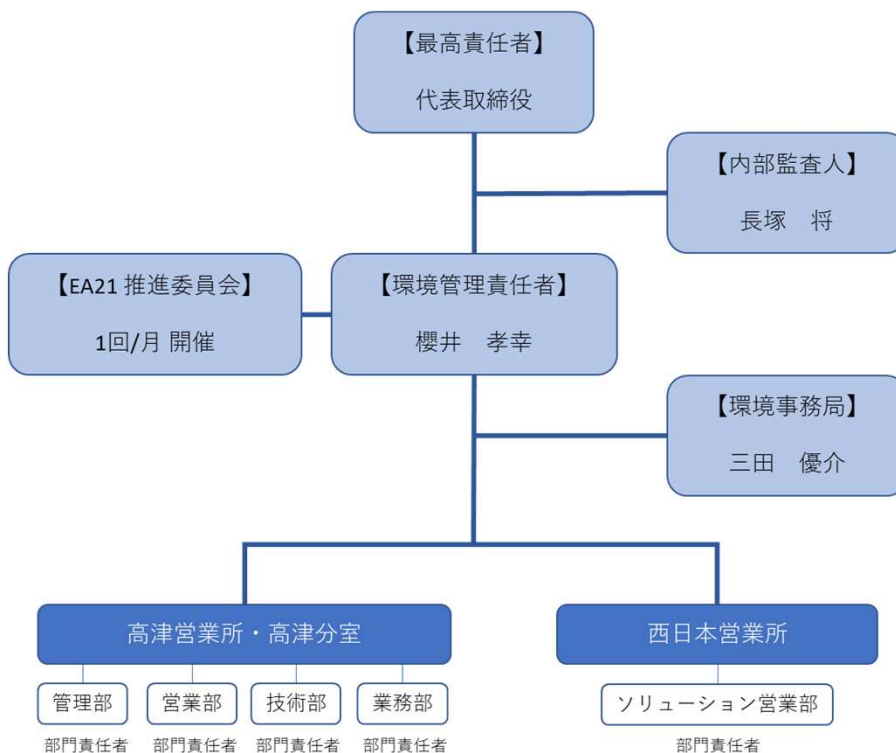
### 【行動指針】

1. 企業理念に基づき、以下の環境に配慮した活動に重点を置き、環境活動の推進及び継続的改善に努めます。
  - ①自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
  - ②業務におけるQCDの向上
  - ③二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量の削減
2. 環境に関連する法令及び条例、協定と当社が同意するその他要求事項を遵守します。
3. 環境経営方針を社内に周知徹底するとともに、環境活動の目標達成に向けて社員全員が行動できるように努めます。
4. 環境活動結果は環境経営レポートとして社外に公開します。

2021年1月1日制定  
株式会社 長塚電話工業所  
代表取締役 長塚 将

# 3. エコアクション21 推進組織図

2021年度のエコアクション21推進組織ならびに責任・権限の範囲を以下の通り定める。







エコアクション21  
認証番号 0001360

## 4-1. 二酸化炭素の排出抑制

2021年度

### 【目標値】

単月目標値 21.02 kg-CO<sub>2</sub>/売上 (※12ヶ月平均値)

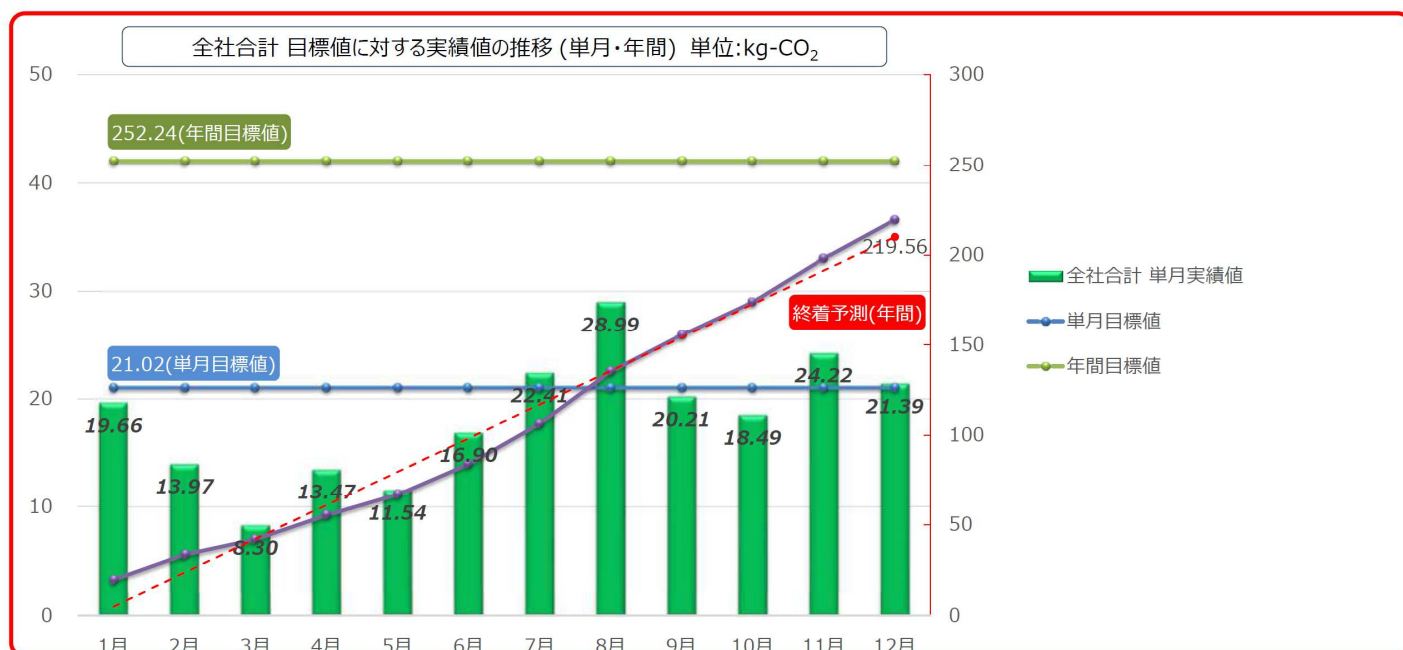
年間累積値 252.24 kg-CO<sub>2</sub>/売上

### 【実績値】

単月実績値 18.29 kg-CO<sub>2</sub>/売上 (※12ヶ月平均値)

年間実績値 219.56 kg-CO<sub>2</sub>/売上

評価：  (達成率：112.9%)



### 【総評】

2021年度は例年と異なる実績となり、8月にピークを迎えた。

例年は、11~2月あたりで暖房の稼働時間が長くなることによる二酸化炭素の排出量が高止まりする傾向が見られたが、本年は通年のピークを8月に迎えるという意外な結果となった。

これは、本項の評価基準が売上をベースにしており、8月の電力消費量が年間4位に対し、同月の売上実績が年間ワースト2(55百万円)と、反比例する形となったことに影響されての結果である。冷暖房の運転はタイマーの活用並びに適正温度での運転が継続されており運用の内容は適正であると判断する。

## 4-2. 焼却処理廃棄物の排出抑制



エコアクション21  
認証番号 0001360

2021年度

### 【目標値】

単月目標値 0.25 kg/売上 (※12ヶ月平均値)

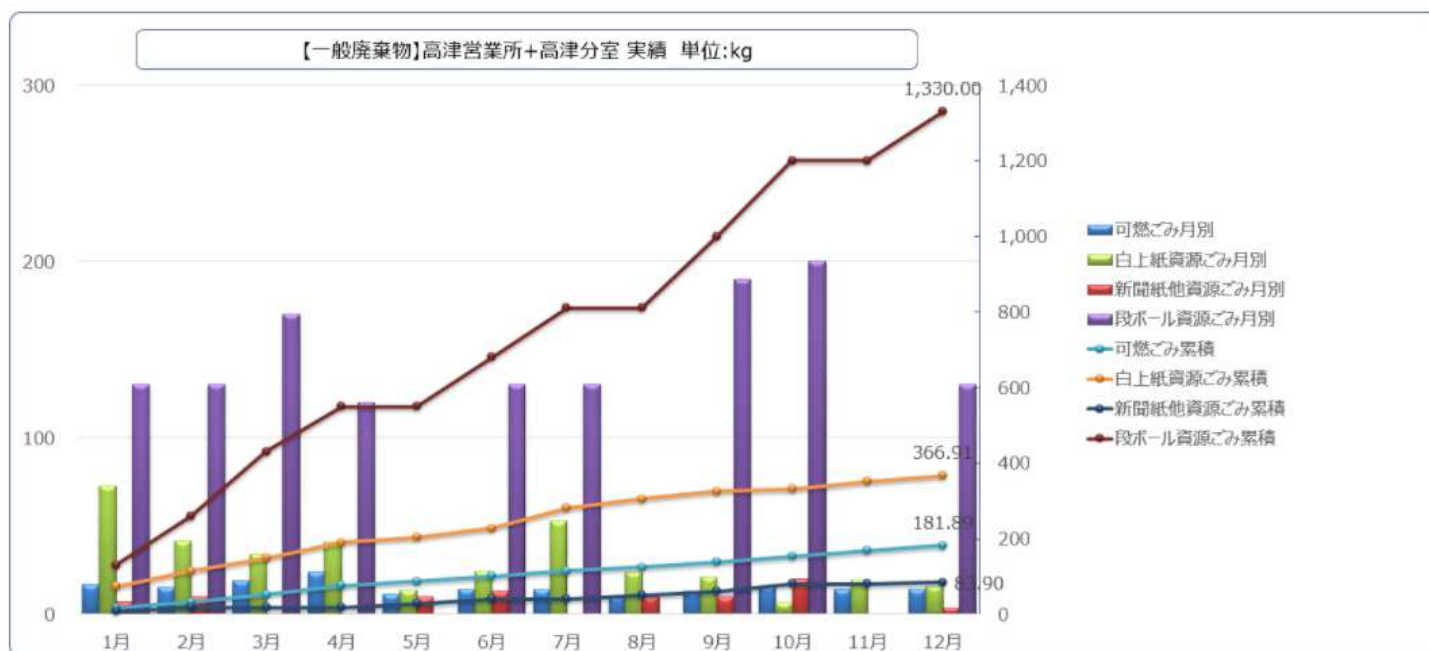
年間累積値 3.00 kg/売上

### 【実績値】

単月実績値 0.21kg/売上 (※12ヶ月平均値)

年間実績値 2.57 kg/売上

評価： ○ (達成率：114.3%)



### 【総評】

エコアクション21の活動も今年で14年を迎え、これまでの活動実績や社員(社内)教育の結果から排出ゴミの分別は問題なく実施されていると判断する。

本年も昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響を多大に受けて社員の外出控えや単位日あたりの社内活動人数の増加のため、焼却処理廃棄物の排出量自体は微増傾向にある。ただし、本項目も売上原単位としており結果で見ると評価は○(達成率114.3%)。

2021年度半ば～2022年度半ばにかけて、社員数を増加(5名程度)する計画があり、今後新入社員が入社する毎に特に廃棄物の分別・区別を重点的に教育を実施し、本項に限らず環境関係についての社員のレベル均一化を図る。



## 4-3. 水資源投入量の抑制



エコアクション21  
認証番号 0001360

2021年度

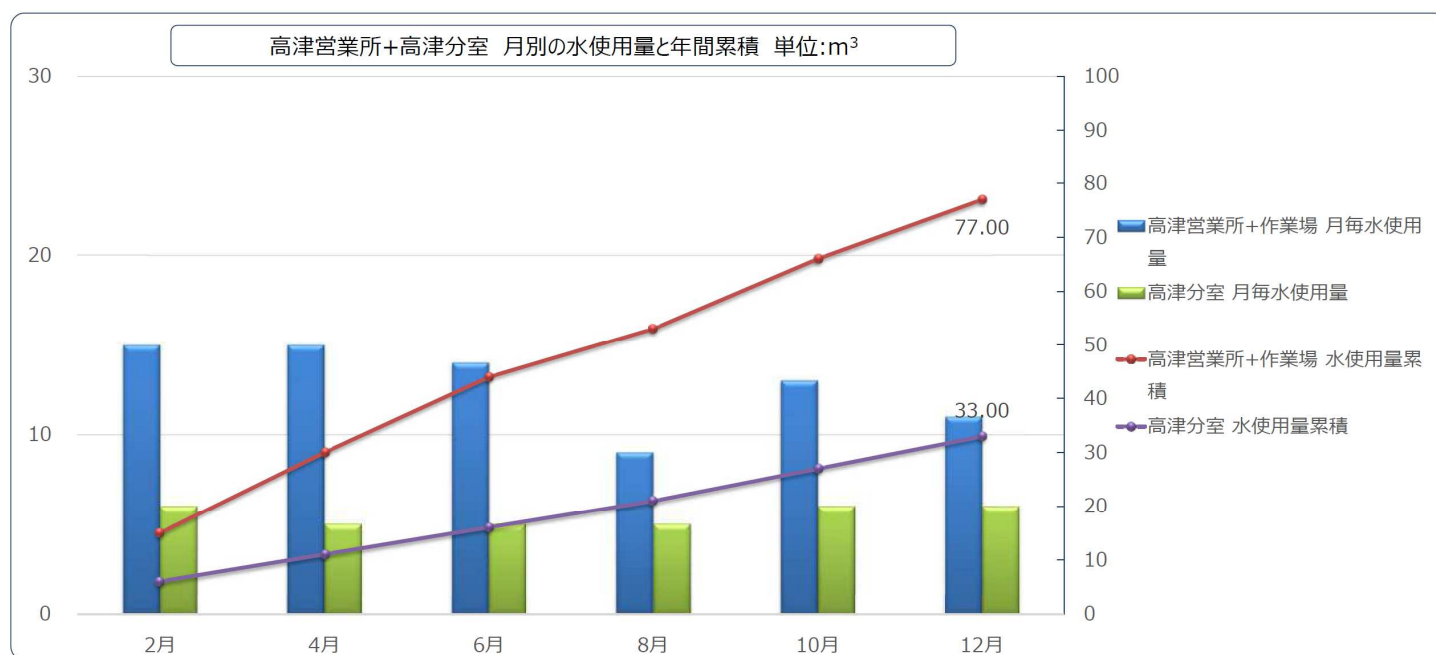
### 【目標値】

二か月毎目標値 0.51 m<sup>3</sup>/延べ人数 (※12ヶ月平均値)  
年間累積値 3.06 m<sup>3</sup>/延べ人数

### 【実績値】

二か月毎実績値 0.46m<sup>3</sup>/延べ人数 (※12ヶ月平均値)  
年間実績値 2.75m<sup>3</sup>/延べ人数

評価： ○ (達成率：110.1%)



※本グラフにおいてはm<sup>3</sup>表記

### 【総評】

水資源投入量の評価については従来通り、6回/年の評価回数となっている。

2020年度と比較すると、使用総量においてはほぼ変化なしであるものの年間を通した最小値が2020年:5~6月⇒2021年:7~8月と若干の時期変動が認められた。

水資源については環境経営計画書にある通り、こまめに止めることと適量使用を継続しており運用上の問題はないと判断する。

## 4-4. 化学物質の管理の徹底



エコアクション21  
認証番号 0001360

2021年度

【目標】  
適正管理の継続

【実績】  
適正管理の継続を確認(実績確認)

評価： ○

### 【総評】

当社では共晶はんだとノルマルヘキサンの2点が該当する。共晶はんだは所持しているものの、鉛フリーはんだを優先的に使用しているため管理下において目立った使用量が認められないが、共晶はんだも用途によっては必要であるため、継続して管理を実施する。

ノルマルヘキサンは部品洗浄に使用するものであるが、こちらも無水エタノールへの置き換えが完了しており、同じく管理下において目立った使用量が認められない。開栓すると強烈なシンナー臭を発生するため、室内では十分な換気が必要でもあり、使いどころが難しい。可能な限り室外で使用するか、来年度引き続きウォッチを行い保管量が減じなければ適正な手段において処分することも検討したい。

## 4-5. 製品に関する環境配慮

2021年度

【目標】  
製品エコ化の推進

【実績】  
製品エコ化の推進を確認(実績管理)

評価： ○

### 【総評】

製品エコ化の第一弾として活動を継続している「箱エコ」において、今年度は5,512箱(385.84kg)の実績となった。本活動は製品用個装箱そのものの使用量の削減に効果的であるだけでなく、輸送用梱包ひと箱あたりに収容できる製品数が約2.5倍へ増加して発送箱数の削減が可能で、梱包資源の使用量削減とともに輸送コストの削減にも極めて効果的である。本活動は来年度も継続とする。



【通常梱包】  
輸送用梱包に20台収納



【エコ梱包】  
輸送用梱包に50台収納可能

## 4-6. 業務におけるQCDの向上

2021年度

### 【目標】

ルールに則った業務推進

### 【実績】

ルールに則った業務推進を確認(実績管理)

評価：



### 【総評】

本年度は特に、自社製品のパッケージ内容を変更した。これは受注～出荷までのリードタイム短縮を狙ったもので、従来は注文を受けてから在庫を取り出してパッキングしていたものを、予めパッキングした状態で在庫化しておくものである。これにより事前の在庫化作業は必要になるが、受注後出荷までの作業工程を前倒しできる。従って注文に対する即応性が向上することで受注件数増ならびに売上額増へ繋がるのが期待できる。4月から運用を開始したので、効果の見極めのため来年度も活動継続する。



### 【従来梱包】

ヘッドセットとケーブルを  
接続してから梱包



### 【新梱包('21.04~)】

個別にパッケージ化してある  
在庫品を同梱

## 4-7. 5S・4定の徹底



エコアクション21  
認証番号 0001360

2021年度

### 【目標】

5S・4定の継続

### 【実績】

5S・4定の継続の確認(実績管理)

評価：



### 【総評】

当社は、自社製品のほか一次代理店として海外メーカーの製品も扱っているが新型コロナウイルスの影響により、海外からの着荷日程が極めて不安定な一年となったため、社内保管在庫品(=在庫量)が「あるかないか」の両極端になってしまった。例年であれば4定状態を保ちながら入荷と出荷のバランスが取れていたものの、数か月分の荷量が一度に入荷となるとキープが困難になり、限定的にはあるが乱雑になる傾向が見られた。

ただそのような状況の中にあっても、業務改善につながるレイアウト変更や製品・在庫品類の保管形態の変更を含めた活動実績を出せたものと評価する。

4定は特に、従来の習慣や風習を認知・継承しながらも「本当に今の状態がベストなのか」といった目線で改めて見直してみると、目前にあっても気付かなかった改善点が見つかることも多く、“当たり前”を疑ってみるのも面白いかもしれない。

# 5. 中長期環境目標



## 1. 主要な環境経営目標と環境負荷実績 ならびに中期目標

中期目標【2022年～2024年】

| 単位   | 【第66期】                          | 【第67期】                          | 【第68期】                          | 【第69期】                          | 【第70期】                          |           |
|--|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------|
|  | 2020年度【実績】<br>(2020.01～2020.12) | 2021年度【実績】<br>(2021.01～2021.12) | 2022年度【目標】<br>(2022.01～2022.12) | 2023年度【目標】<br>(2023.01～2023.12) | 2024年度【目標】<br>(2024.01～2024.12) |           |
| <b>全社売上目標</b>  |                                 |                                 |                                 |                                 |                                 |           |
| 全社売上目標金額   | 百万円                             | 945                             | 933                             | 1,000                           | 1,000                           | 1,000     |
| <b>二酸化炭素排出量</b>                                      |                                 |                                 |                                 |                                 |                                 |           |
| 目標値 21.03kg-CO <sub>2</sub> /売上<br>(2022年度より見直し・再設定) | kg-CO <sub>2</sub> /売上          | 17.21                           | 18.30                           | -                               | -                               | -         |
|  | kg-CO <sub>2</sub> /年           | -                               | -                               | 24,348.00                       | 23,130.60                       | 21,974.07 |
| 調整後排出係数 高津   | -                               | 0.455<br>(2018年度係数適用)           | 0.455<br>(2018年度係数適用)           | -                               | -                               | -         |
| 調整後排出係数 西日本  | -                               | 0.334<br>(2018年度係数適用)           | 0.334<br>(2018年度係数適用)           | -                               | -                               | -         |
| <b>焼却処理廃棄物</b>                                       |                                 |                                 |                                 |                                 |                                 |           |
| 目標値 0.25kg/売上<br>(2022年度より見直し・再設定)                   | kg/売上                           | 0.28                            | 0.21                            | -                               | -                               | -         |
|  | kg/年                            | -                               | -                               | 188.04                          | 178.64                          | 169.71    |
| <b>水資源投入量</b>  |                                 |                                 |                                 |                                 |                                 |           |
| 目標値 0.51m <sup>3</sup> /延べ人数<br>(2022年度より見直し・再設定)    | m <sup>3</sup> /延べ人数            | 0.47                            | 0.46                            | -                               | -                               | -         |
|  | m <sup>3</sup> /年               | -                               | -                               | 3.06                            | 3.06                            | 3.06      |

### 【総評】

2021年度の主要な環境経営目標と実績は上記の通りとなった。

三大目標に関して、焼却処理廃棄物においては目標値に対し-14.30%の実績、二酸化炭素排出量と水資源投入量は目標に対し夫々-12.98%、-8.30%と目標を達成した。2022年度以降の中期的目標値も以上のように定め、活動に取り組む。

なお、2022年度以降は評価の基準を売上原単位から単純な物量数値へと変更することとした。これには、売上金額によって実績値による目標達成/不達ラインの変動が起きてしまうことを避ける目的と、また単純な物量数値で評価することによって実績の詳細な分析・把握が可能になるため、次年度の活動計画立案に際し、真に的を射た活動計画内容となることを期待するものである。

## 6. 環境関連法規制の遵守状況 (外部からの苦情等について)



### 1. 当社に適用となる主な環境関連法規

| 適用法令  | 該当する活動   | 遵守確認 |
|---|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市公害防止等環境保全に関する条例</li> <li>大阪市廃棄物の減量推進及び適正処理並びに生活環境の清潔保持に関する規則</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業系一般廃棄物等の排出方法</li> <li>生ごみの適正処理、環境洗剤の使用</li> <li>事業系廃棄物発生抑制、再使用及び再利用の促進と減量</li> <li>廃棄物分別化の徹底</li> </ul> |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>消防法</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>5S活動(保管庫の適正管理)</li> <li>管理責任者名の明記、使用手順書による取扱</li> <li>消火器の設置</li> </ul>                                   |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生法</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>排気装置の点検</li> <li>専用洗剤の用意と手洗いの励行</li> </ul>  |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の処理及び清掃に関する法律</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の分別化の徹底</li> <li>廃棄物処理業者との委託契約、契約終了後の保管</li> <li>マニフェストの発行、回収の日程管理・保管並びに管理表報告書の提出</li> </ul>           |      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>フロン類の仕様の合理化及び管理の適正化に関する法律</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>業務用エアコンの簡易点検</li> <li>点検及び整備に関わる記録と保存</li> </ul>  |      |

### 2. 外部からの苦情などの受付状況及び対応の結果

過去3年間、法令に対する違反実績なし。

また、同様に関係機関や周辺地域からの苦情・指摘・訴訟等も実績なし。

## 7. 代表者による全体の取組状況の 評価と見直し



### 【総評】

2021年度(第67期)は、昨年から続いている新型コロナウイルスの影響が色濃く残り、また新たに変異型のまん延も確認され、未だ満足なエコアクション21の活動が出来ない状況にあります。ただそのような状況下にあっても可能な限りの環境活動は継続しており、本年の活動結果から新たに見えた課題や問題点は来年度の活動のヒントに繋がり、今後も継続的な活動・改善が出来ると期待できます。

今年も含めてこれまでの環境経営計画を改めて見直すと、既に十分定着していると評価できる項目と、新たな計画の立て直しが必要な項目があるように思います。特に最近力を入れているデータベースのクラウド化や、電子データの活用による業務効率の向上は、今後の自社の継続的発展に必要な内容であると捉えています。様々なツールが存在する昨今、真に目的を達成できる手段やルール等を見極めながら、社内に浸透しやすく社員によって差が生まれるようなことのないような活動を検討してください。

また、今年度で西日本営業所には常駐社員が不在になることが決まりました。今後継続して西日本営業所をエコアクション21の認証・登録範囲とするかは次回中間審査または更新審査時に中央事務局との相談になりますが、現時点では認証・登録範囲に含まれていますので必要に応じて事務局が現地視察(内部監査)を実施することを検討してください。

最後に、来年の環境経営計画の立案にあたっては、各項目の評価基準について売上原単位の適用を継続するか、新たな評価基準を設定するかを含めて考慮・検討するようにしてください。

代表取締役  
長塚 将